

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立沼間小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

## 【国語】

どの設問においても、無回答者が多いことから、問題文の多さや設問の意味理解に苦戦する児童が多いということが予想される。また、選択肢の文を理解する時に一部分のみを捉え、回答している児童や、難しいと諦めている児童も多いようだ。このことから、文章と図や表と関連させながら整理したり、資料の読み取りを意識したりしながら授業を進めていきたい。

### 《言葉の特徴や使い方に関する事項》

- 一度のみの指導で終わるのではなく、文脈の中で正しく漢字を活用できるように指導の工夫をしていきたい。

### 《情報の扱い方に関する事項》

- 話し合いを整理した記録メモが、何を説明しているのかを理解するのが苦手である。情報の整理をする過程で、何を説明しているのかを考えながら指導する工夫をしていきたい。

### 《読むこと》

- 長文を読んで内容を理解することが苦手である。必要な情報を見つけたり、文章全体の構成を把握したりすることができるよう、語彙や知識を増やす、文章中のキーワードを探す、指示語や接続後に着目し、文のつながりを意識することを習慣づける、などの工夫を日常的に取り入れていきたい。

### 《児童質問紙（国語）》

- 「辞書を使って調べることが少ない」「家で読書する時間が短い」と回答した児童がやや多かった。調べ学習や読書活動を通して、自主的に言葉や本に親しむ態度を育てる必要がある。

## 【算数】

### 《数と計算》

- 小数や分数の計算に関しては、基本的な技能が定着している。小数の仕組みについて、理解できている。
- 問題文の意味を読み取り、適切な計算方法を選ぶ設問でつまずきが見られた。文章題への取り組み方、図や式を使って整理する練習を充実させていきたい。分数においては、単位分数についての理解ができていない。無回答率の高さから、線分図を読み取る力がついていないことが予想される。線分図等を活用し、1の目盛りに着目できるように習熟を図りたい。

### 《図形》

○ 角の大きさについては、おおむね理解できていた。

● 台形の選択、五角形の求積に課題がみられた。算数的活動を通して、図形を様々な角度から見て、その特徴や関係を理解する力をつけていきたい。

### 《測定》《変化と関係》

● 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、求め方を記述する問題では、全国平均より10ポイント以上、下回っていた。また、はかりの目盛りを読み取る問題では、全国平均を大きく下回り、課題が浮き彫りになった。デジタル機器の増加で、目盛りを読み取る経験が少なくなっていると考えられる。実体験を伴った学習、自分の考えを言葉でまとめる活動を増やしていく必要がある。

### 《データの活用》

○ 棒グラフの読み取りはよくできている。表から複数のデータを読み取り、比較することは、半数以上ができていた。

● 目的に応じた棒グラフを選択し、出荷量を比較した結果を記述する問題では、正答率が低かった。グラフを「読む」だけでなく、「作る」「考察する」力の育成が今後の課題となる。

### 《児童質問紙(算数)》

● 「算数の学習が役立つと思わない」と答えた児童が全国よりやや多い。実生活と結びつけた課題の提示や、達成感を持てる授業の工夫をしていきたい。

## 【理科】

### 《「エネルギー」》

○ 電気を通すものや電磁石の強さなど、電気についての知識は概ね理解できている。

● 回路図を置き換えて考える設問では平均を下回った。設問の意味や「電気が流れる条件」が図だけでなく仕組みとして理解できていないことが考えられる。「結果→考察」の思考の流れを丁寧に指導するとともに、応用して考えるような問いの工夫をしていきたい。

### 《「粒子」》

○ 水の状態変化や気体の性質に関する知識は概ね定着している

● 水の状態変化で、水蒸気が冷やされるとどうなるのかという問いの正答率が低く、無回答率も高かった。実験やモデルを用いた視覚的・体験的な指導の工夫が必要となる。

### 《「生命」》

○ 顕微鏡の使い方や操作方法に関する知識は概ね定着している。

● 「受粉」という言葉の意味や発芽条件などに関する知識の定着が弱い。発芽条件については、実験と関連させ、体験的な指導を工夫していきたい。

## 《「地球」》

- 実験の条件や結果から、思考し正しい答えを導き出すことができている。
- 実験結果を応用して、考える問題についての問題での正答率が低かった。実験結果を基にして、思考する問いの工夫をしていきたい。

## 《児童質問紙(理科)》

- 「理科の学習は得意」と感じている児童は多い半面、「実験の結果をもとに考える」のは苦手と捉えている児童も多い。実験をもとに体験的に知識を習得し、思考を促していく指導の工夫をしていきたい。

### ◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

多くの児童が「学校の勉強はがんばっている」と回答しており、学習意欲は高い傾向にある。一方で、家庭学習の時間や、自主的な学習習慣(読書・辞書の活用・ノート整理等)に課題が見られる。学校での声かけや、宿題・課題の提示の工夫、学習習慣の定着が課題としてみられる。

### ◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

#### 1. 言語活動・思考の可視化を意識した授業づくり

各教科で、書く・話す・整理する活動を通じて、思考を深め表現する力を育てる。

#### 2. 家庭学習・自学自習の支援強化

課題設定や自学ノートの活用、読書習慣づくり(音読カードや国語の学習)を通じて、学びの土台を整える。

#### 3. 個別最適な学びと協働的な学びの両立

タブレットやノートを活用し、個に応じた課題と集団での話し合いをバランスよく取り入れる。

#### 4. 「学ぶ意味」や「楽しさ」の明確化

生活に結びついた教材や、実感を伴う活動を取り入れ、学びの価値を実感させる授業づくりをしていく。